

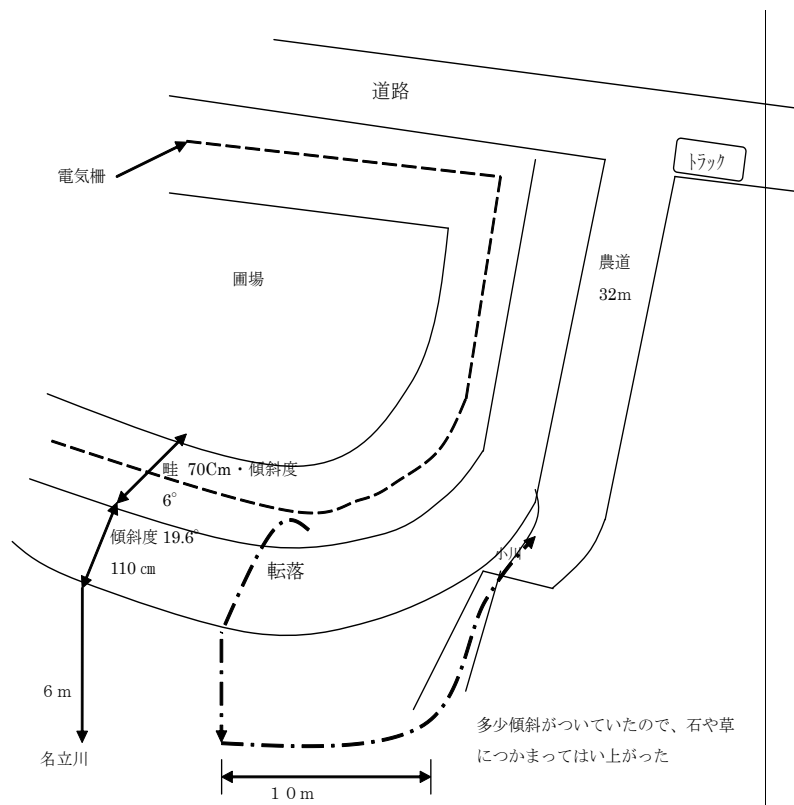
②草刈機で水田の畦の草を刈取中に脚が滑り、6m下の川に転落、右足人差し指・中指・薬指を脱臼
(平成24年 8月 9時頃、畦、男性・63歳)

夫婦で8時半頃から畦の草刈りを始め、30分後に6m下の川原に転落した。

一回転して川原に落ち右足の指先を石に強く打ち、人差し指・中指・薬指の3本を脱臼、頭にすり傷がついた。川側は傾斜度19.6度の斜面が110cmあり、左足で斜面を踏ん張った時に滑った事が予想されるが、本人は「背中を引っ張られたような気がしたが、滑った記憶がない」とのこと。



妻は草刈機の空回りの音がしたので何か起きたと思い、現場に駆けつけたところ本人が川原に倒れていた。直ぐに立ち上がろうとしたが右足がしびれ、強い痛みがあったので水で冷やした。その後、草等をつかんで4mの崖を這い上がり、妻が運転する車で自宅に戻り病院に電話した。当日は土曜日で、かかりつけの病院では整形外科医がいないので別の病院に行くよう指示を受け、妻の運転で病院に行き治療を受けた。(事故から2時間30分経過)。休日出勤の



医師は脳外科医でレントゲンを撮ったが脱臼とは診断せず、腫れが引かなければ月曜日に再受診するようにと指示をうけた。腫れがだんだんひどくなり、月曜日に診察を受けた結果、脱臼と診断され即手術を受けた。

* 事故原因

この地帯は猪が出て水田を荒らし、稲の上で転がると稲に臭いがついてしまうため、商品価値がなくなる。このため、電気柵を設置して猪の侵入を防いでいる。電気柵を設置して10日経過し草が伸びてきた。草が線に当たると放電するので草刈りを始めた。

当日は他の場所の草刈りも予定していたので多少焦っていた。どうして滑ったのかわからないが、年を取ってきたので事故となった可能性がある。畦の幅が70cmでその中央に電気柵を設置しているので足場が狭い。川側は傾斜度19.6度の斜面が110cmあり左足で斜面を踏ん張った時に滑った事が予想されるが、本人は「背中を引っ張られたような気がしたが、滑った記憶がない」とのこと。危ないので、畦を広げる予定。

③刈払機で水田の畦畔を草刈り作業中、足が滑り左足を捻挫した。

(平成24年 7月朝 畦、男性・58歳)

朝から畦草を刈っていて、1時間ぐらいでもう少しで終わるといえるときに、朝露で濡れていて足が滑った。左足を下側においていたが、5月に痛めた右足をかばって、左足により負担が掛かっていた。足が滑ったとき、左足の側面が長靴のなかで丸まるようになり、ぎくっとなり、捻挫した。

草刈りが必要な場所は上の畦面30cm、傾斜面120cm、全体で150cmであった。角度は30度。刈払機は背負い式ではなく、片側にヒモがついた棒状のもので、刃はチップソー。目の保護はサングラスのみ、耳栓なし、帽子は野球帽。左足を下側に、右側から刈り降ろす姿勢で作業した。一人作業であった。携帯電話はいつも持って行くことにしており、この農作業にも持って行った。携帯電話がどこかに飛んでいかないように、ヒモをつけている。

滑った左足がぎくっとなった。草刈り作業が一段落した段階で、自分で運転して掛かりつけの整骨院に行った。5月に怪我をしたとき通院した同じ整骨院。右足をかばっていたので、左足により負担がかかり、捻挫していた。切れたわけではないが、アキレス腱が炎症を起こしていた。

添え木をし、テーピングし、その後3日に1度、10回ほど通院した。

